

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・ロシア等で下方修正も、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

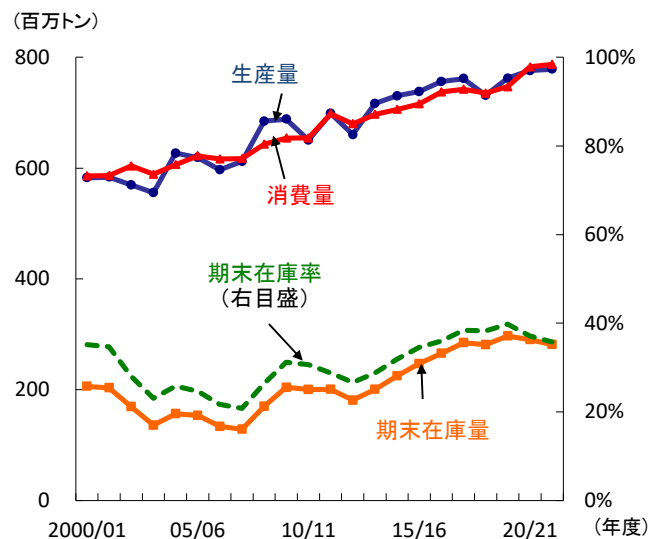
消費量 前年度比 前月比

- ・ウクライナ等で上方修正も、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・豪州、インド等で上方修正も、ウクライナ、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



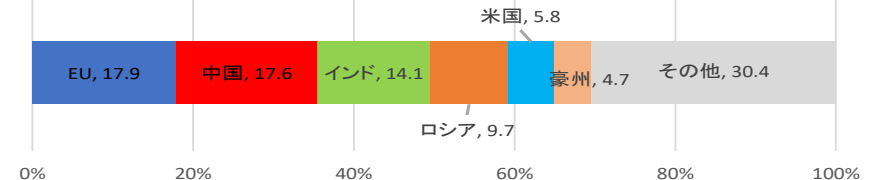
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

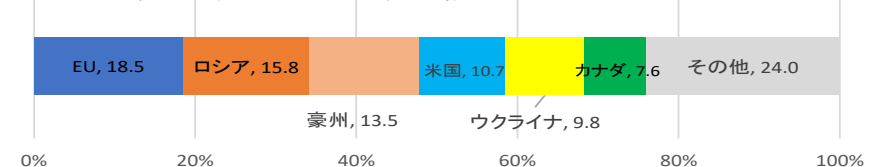
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	762.4	776.0	778.5	2.1	0.3
消 費 量	746.8	782.6	787.3	▲ 0.8	0.6
うち飼料用	139.7	157.7	162.1	1.4	2.8
輸 出 量	193.9	202.6	203.1	▲ 3.6	0.2
輸 入 量	188.4	194.8	201.3	▲ 3.5	3.3
期末在庫量	296.8	290.3	281.5	3.3	▲ 3.0
期末在庫率	39.7%	37.1%	35.8%	0.5	▲ 1.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (9 March 2022)

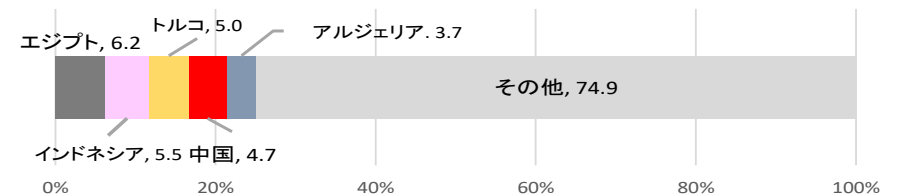
○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量(778.5百万トン)(単位: %)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量(203.1百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量(201.3百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2021/22 年度の輸出量は過去 6 年で最低

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、44.8 百万トン(冬小麦：34.8 百万トン(対前年度比 9.0%増)、春小麦：9.0 百万トン(同 43.6%減)、デュラム小麦：1.0 百万トン(同 46.1%減))の見込み。

「Wheat Outlook」(2022.3.11)によれば、2022/23 年度の冬小麦の生育状況は、3 月 1 日現在、干ばつ状態が 2 月より悪化した。ハード・レッド・ウインター(HRW)の主要生産地であるカンザス州西部、コロラド州、オクラホマ州等を含め、冬小麦生産地の 73%が干ばつ状態となっている。この干ばつによる休眠期への影響により、3 月 6 日現在の作柄評価(良からやや良の割合)は、カンザス州 24%(2021 年 11 月 28 日時点 62%)、オクラホマ州 15%(同 48%)、テキサス州 7%(同 20%)と悪化している。冬小麦生産にはこれからの春の天候がより大きな影響を与えられとされるため、現在の冬の天候だけでは生産量の見通しを確実に判断できないとしている。一方、春小麦の生産地の干ばつ状態は、前月の 55%から 41%に改善し、主要生産地のノースダコタ州の大部分とミネソタ州の東部では干ばつ状態が解消した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、ロシア、ウクライナ紛争による両国からの輸出懸念から、ロシア、ウクライナ産と競合する HRW とソフト・レッド・ウインター(SRW)の価格上昇が著しく、価格は前年を 80%以上上回る水準となり、通常では米国産の中で一番高価格なハード・レッド・スプリング(HRS)を越えている。また、2021/22 年度の輸出量は、輸出の伸び悩みや他の輸出国に比べ高い価格から、前月予測から 0.3 百万トン下方修正され、前年度に比べ 19.3%減少の 21.8 百万トンと過去 6 年間で最低の水準となっている。その中で、最近の価格上昇により最も輸出に影響を受けたのは HRW 及び SRW で、それぞれの輸出量は、前月に比べ 0.1 百万トン下方修正され、8.7 百万トン、3.1 百万トンとなった。なお、2022 年の輸出先国別の輸出検証高(1 月 6 日～3 月 3 日)は 3.6 百万トンであり、内訳はメキシコ(63 万トン)、日本(53 万トン)、フィリピン(44 万トン)の順である。2021/22 年度の期末在庫量は、前月予測より 0.1 百万トン上方修正され 17.8 百万トンとなるものの、2013/14 年度以降最小の見込み。

小麦—米国(冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

(単位：百万トン)

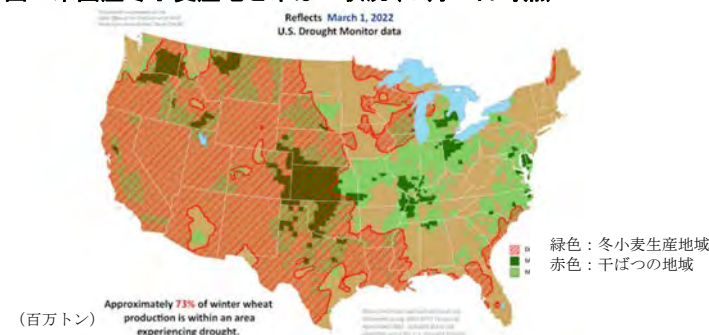
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	52.6	49.8	44.8	-	▲ 10.0
消 費 量	30.4	30.5	30.8	-	1.2
うち飼料用	2.6	2.6	3.0	-	15.4
輸 出 量	26.4	27.0	21.8	▲ 0.3	▲ 19.3
輸 入 量	2.8	2.7	2.6	▲ 0.1	▲ 5.1
期末在庫量	28.0	23.0	17.8	0.1	▲ 22.7
期末在庫率	49.3%	40.0%	33.8%	0.4	▲ 6.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.13	14.89	15.04	-	1.0
単収(t/ha)	3.47	3.34	2.98	-	▲ 10.8

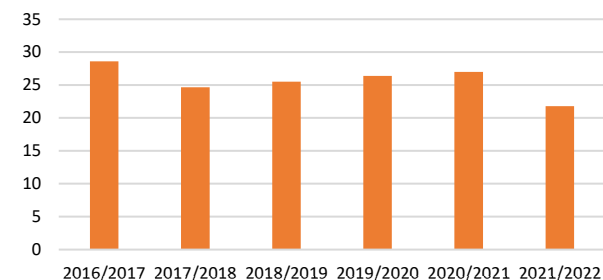
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(9 March 2022)

図 米国産冬小麦産地と干ばつ状況(3 月 1 日時点)



資料：USDA「Wheat outlook: March 2022」(2022.3.11)

図 米国産小麦輸出量の推移(2016/17 から 2021/22)



資料：USDA「PS&D」(2022.3.9)をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2021/22 年度期末在庫は減産により過去最低の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 21.7 百万トンとカナダ西部の干ばつの影響を受け前年度に比べ 38.5%減少し、2008/09 年度以降最低水準。

カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2022.3.18)によれば、生産量は前月予測からの変更はなく、21.7 百万トンの見込み。そのうち、デュラム小麦は前年度から 60%減の 2.7 百万トン、普通小麦は前年度から 34%減の 19.0 百万トンの見込み。

また、AAFC によれば、2022/23 年度の播種面積は、前年度(9.49 百万ヘクタール)から 10.4%増の 10.05 百万ヘクタール。生産量は前年度(21.7 百万トン)から 43.9%増の 31.2 百万トンの見込み。そのうち、デュラム小麦は高水準な価格や、堅調な世界の需要等から播種面積は前年度から 9 %増の 2.45 百万ヘクタール。干ばつで減少した単収が回復すると生産量は前年度(2.7 百万トン)の約 2 倍の 5.5 百万トンと過去 5 年平均並となる見込み。

また、普通小麦も高水準な価格や、在庫量の逼迫から、播種面積は前年度から 5 %増加し 7.60 百万ヘクタールの見込み。なお、普通小麦のうち、春小麦の播種面積は前年度から 6 %増加し 7.05 百万ヘクタール、冬小麦は前年度から 1 %増加し 0.55 百万ヘクタールの見込み。また、単収が 3.44 トン/ヘクタールと干ばつ被害を受けた 2021/22 年度から回復する見通しで、生産量は前年度から 35.0%増加し 25.6 百万トンと過去 5 年平均を上回る見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 15.5 百万トンとなったが、2005/06 年度以降最低の見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2022 年 1 月の輸出量は普通小麦が 0.9 百万トン、デュラム小麦は 0.1 百万トンの計 1.1 百万トンで、輸出先国は、普通小麦は日本(22.8%)、中国 (18.0%)、インドネシア(11.8%)、デュラム小麦は米国(36.0%)、モロッコ(20.6%)、ナイジェリア(18.8%)の順。

USDA によれば、期末在庫量は 2.9 百万トンと対前年度比 48.3%減、1960 年以降で最低の見込み。2021/22 年度の実産量の大幅な減少が要因となっている。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	32.7	35.2	21.7 (21.7)	-	▲ 38.5
消 費 量	9.8	9.1	9.5 (8.2)	▲ 0.1	4.3
うち飼料用	4.6	4.2	4.5 (4.1)	-	8.2
輸 出 量	24.1	26.4	15.5 (15.6)	0.3	▲ 41.4
輸 入 量	0.7	0.6	0.6 (0.2)	-	9.1
期末在庫量	5.5	5.7	2.9 (3.8)	▲ 0.2	▲ 48.3
期末在庫率	16.2%	16.0%	11.8% (16.0%)	▲ 0.9	▲ 4.3

(参考)

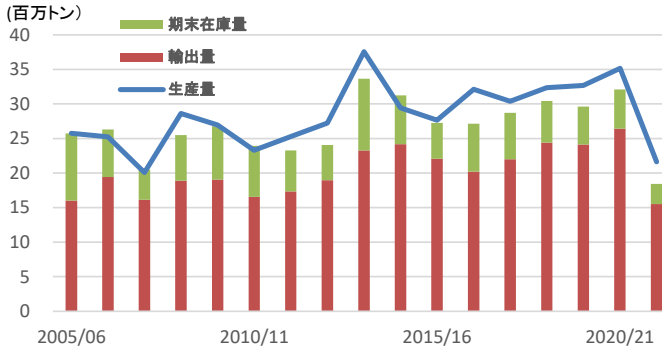
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.25 (9.25)	-	▲ 7.7
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.34 (2.34)	-	▲ 33.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 March 2022)

AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(18 March 2022)

図 カナダ産小麦の生産量、輸出量、期末在庫量の推移



資料：USDA「PS&D」(2022.3.9)をもとに農林水産省で作成

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出先国(2022年1月)

＜普通小麦＞

＜デュラム小麦＞

	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	日本	21.3	22.8	米国	4.7	36.0
2	中国	16.8	18.0	モロッコ	2.7	20.6
3	インドネシア	11.0	11.8	ナイジェリア	2.5	18.8
4	ナイジェリア	8.0	8.6	アルジェリア	1.7	13.0
5	韓国	5.7	6.1	日本	1.5	11.7
6	その他	30.7	32.8	その他	0.0	0.0
計		93.5	100.0	計	13.2	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2 普通小麦の品種はNo.1-3 Canada Western Red Spring, No.2 Canada Prairie Spring, No.1 Canada Western Red

winter, No.2 Canada Eastern, Other, デュラムはCanada Western Amber Durum Others

資料: Canadian Grain Commission 「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」 (2022年2月28日) をもとに作成。

＜ 豪州 ＞ 2021/22 年度の生産量、輸出量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、以下の豪州農業資源経済科学局 (ABARES) の発表を受けて、前月予測から 2.3 百万トン上方修正され、史上最高の 36.3 百万トンの見込み。

ABARES「Australian Crop Report」(2022.3.1)によれば、2021/22 年度の生産量は 2 年連続して過去最高を更新し、36.3 百万トンの見込み。主要生産州別の生産量は、ニューサウスウェールズ (NSW) 州では、生産量は前年度より 3 % 減少するものの、過去 5 年平均の約 2 倍の 12.8 百万トンの見込み。西オーストラリア(WA)州は、前年度より 35% 増の 12.8 百万トンと史上最高の見込み。なお、NSW 州では、11 月に豪雨による洪水、収穫の遅延によりタンパク含有量が低下したため、飼料用小麦が増加すると見られている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、史上最高の生産量や、豪州産の 3 月 7 日時点の平均輸出価格(FOB)が 395 ドル/トンと他の主要輸出国に比べ価格競争力があることから、2021/22 年度の輸出量は、前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、27.5 百万トンと、史上最高となる見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2022.3.9)によれば、2021 年 7 月から 2022 年 1 月までの輸出量は、13.2 百万トンとなり、2020 年 12 月以降はひと月あたり 2.7 百万トンを超える過去最高水準となっている。過去数年の間に南オーストラリア州(SA 州)で小規模港がいくつか開港し、また WA 州で輸出能力が向上したため、ここ 4 カ月の輸出ペースの加速が可能となった。

このような輸出状況から、豪州での輸出スロットの予約は数ヶ月前からすべて埋まっており、新穀の買い付けも進んでいる。

豪州統計局によれば、1 月の輸出量は、前月 (2.2 百万トン) に比べ 2.8 百万トンと増加した。同月の輸出先国は、中国 (25%)、インドネシア (17%)、フィリピン (13%) の順である。また、ベトナムは豪州産の飼料用小麦の輸入を増加するとみられている。なお、これまで豪州の輸出業者はアジア市場に重点を置いてきたが、豪州では 2 年続きの豊作で輸出余力が十分にあるため、今年はアフリカ向け等への輸出も意欲的に検討している。

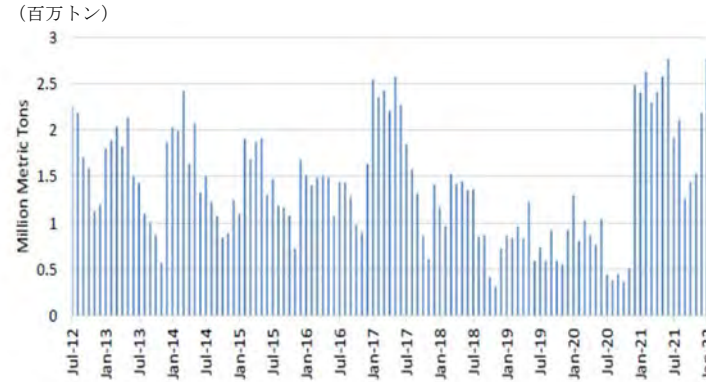
小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	14.5	33.3	36.3 (35.5)	2.3	9.0
消 費 量	8.0	8.0	9.0 (9.5)	0.5	12.5
うち飼料用	4.5	4.5	5.5 (5.7)	0.5	22.2
輸 出 量	9.1	23.9	27.5 (24.0)	2.0	15.3
輸 入 量	0.9	0.2	0.2 (0.3)	-	-
期末在庫量	2.7	4.3	4.3 (6.6)	▲ 0.2	-
期末在庫率	15.6%	13.6%	11.9% (19.7%)	▲ 1.5	▲ 1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.86	12.90	13.00 (7.4)	▲ 0.10	0.8
単収(t/ha)	1.47	2.58	2.79 (4.46)	0.19	8.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)
IGC 「Grain Market Report」(17 February 2022)

図 豪州の月別小麦輸出量



資料：USDA「Grain:World Markets and Trade」(2022.3.9)
表 豪州の小麦輸出先国別輸出量 (万トン)

2022年1月			2021年1月～2022年1月		
国名	輸出量	シェア(%)	国名	累積輸出量	シェア(%)
中国	68.7	24.9	インドネシア	539.3	19.1
インドネシア	46.1	16.7	中国	362.3	12.8
フィリピン	34.5	12.5	ベトナム	323.8	11.5
ベトナム	22.2	8.0	フィリピン	233.0	8.2
イエメン	18.7	6.8	マレーシア	127.9	4.5
その他	85.8	31.1	その他	1240.4	43.9
合計	276.1	100.0	合計	2,826.5	100.0

資料：豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

< EU27+英国 > 2022/23 年度の冬小麦はフランス等では休眠期を終了

【生育・生産状況】EU 委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2022.2.24)によれば、2021/22 年度の EU27 ヶ国の生産量は、前月予測から 0.7 百万トン下方修正され、138.6 百万トン。

このうち、普通小麦は前月に比べ 0.7 百万トン下方修正され、130.8 百万トンとなったが、前年度を 9.7%上回る見込み。国別にはリトアニア等で下方修正された。一方、デュラム小麦は、前月に比べわずかに上方修正され 7.8 百万トンとなり、前年度を 5.1%上回る見込み。国別には、フランス、イタリア等で上方修正された。また、英国環境・食料・農村地域省(DEFRA)「Farming Statistics – final crop areas, yields, livestock populations and agricultural workforce at 1 June 2021」(2021. 12.16)によれば、英国の 2021/22 年度の実産量は、14.0 百万トンの見込み。

この結果、EU27 ヶ国と英国の合計生産量は 152.6 百万トンとなる見込み。

2 月後半、イベリア半島を除く欧州の広い地域で継続的な降雨があり、圃場における土壌水分量は上昇した。気温は平年よりも高い状態で推移したため、フランス等において小麦の休眠期が終了した。イベリア半島では十分な量の降雨がなく乾燥の懸念があった。

3 月に入り、イベリア半島を除く欧州の広い地域では乾燥した気候となり、気温は平年よりも低い状態となっている。ポーランド以東の欧州北東部の小麦は未だ休眠期の状態である。一方、イベリア半島は降雨があり、南部の一部の地域を除いて乾燥の懸念は解消されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の EU と英国の消費量の計は前月予測から変更なく 123.0 百万トンの見込み。輸出量は、前月予測からわずかに上方修正され、38.2 百万トンの見込み。

3 月 7 日現在の EU の輸出価格 (FOB) は、ロシアのウクライナ侵攻を受け、中東地域と北アフリカ地域からの強い需要への期待を反映し、前月から 150 ドル/トン上昇し 460 ドル/トンとなった。(右図)

USDA によれば、2021/22 年度の EU27 ヶ国の期末在庫量は 1999/00 年度以降最低の 9.6 百万トンの見込み。

小麦－EU27+英国 (冬小麦を主に栽培)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	154.4	136.6	153.0 (152.0)	0.1	12.0	
消費量	122.5	118.2	123.0 (121.0)	-	4.0	
うち飼料用	53.2	48.5	52.9 (48.8)	-	9.1	
輸 出 量	41.4	30.2	38.2 (35.3)	0.0	26.5	
輸 入 量	7.3	8.6	7.1 (7.2)	▲ 0.4	▲ 17.4	
期末在庫量	15.6	12.4	11.3 (14.0)	▲ 0.3	▲ 8.5	
期末在庫率	9.5%	8.3%	7.0% (9.0%)	▲ 0.1	▲ 1.3	

(参考)
収穫面積(百万ha) 26.16 24.36 25.93 (47.64) - 6.4
単収(t/ha) 5.90 5.61 5.90 (3.19) - 5.2
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)
IGC 「Grain Market Report」(17 February 2022)
表内及び () 内のデータは EU27 ヶ国+英国のデータ

図 EU27ヶ国の小麦生産量の推移(普通小麦、デュラム小麦)

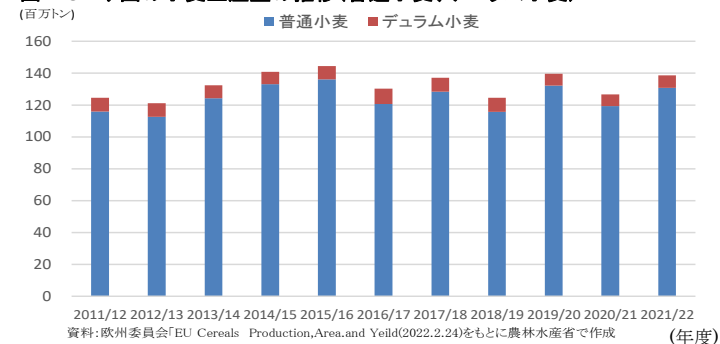
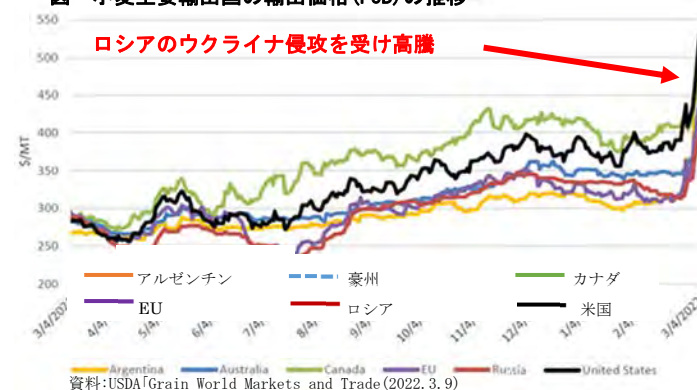


図 小麦主要輸出国の輸出価格(FOB)の推移



＜ 中国 ＞ 2021/22 年度の輸入量は前年度に比べ 10.5%減少する見込み

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2022.3.4)によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測から変更なく 136.9 百万トンで、史上最高の見込み。作期別には、冬小麦は 129.2 百万トン、春小麦は 7.8 百万トン。

中国中央气象台(2022.3.8)によれば、2022/23年度の冬小麦は、多くの地域で越冬期を終えて、活着期から節間伸長期を迎えている。2月の生育状況は、北部産地では気温が全体的に平年並みで、日照も正常であった。南部産地は日照と気温がやや不足したが、土壌水分量は良好で、気象条件は概ね生育に有利であった。

なお、中国農業農村部のホームページによれば、2月24～25日に、唐仁健農業農村部長が、作付け遅れにより苗の生育状況が史上最悪とされる河北省の冬小麦の現地指導に入ったことが公表されている。ほかにも、河南・山東・陝西・山西の各省で作付けの遅れがあり、回復に努力しているとされている。

中国農業農村部は、食料安全保障の観点から、食糧生産量を 6.5 億トン以上に安定させる目標を定めた。そのうち、小麦については 2025 年までに単収を引き上げるにより、生産量を 1.4 億トン以上にするととしている。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の輸入量は前月予測からの変更はなく 8.0 百万トンで、前年度に比べ 23.3%減少する見込み。

中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 12 月の小麦輸入量は、前年(8.2 百万トン)を 19.2%上回る 9.7 百万トン。同期間の輸入量は 7 月から 10 月にかけて減少傾向であったが、11 月以降に増加に転じた。2021 年の輸入先国は、豪州(28.1%)、米国(28.1%)、カナダ(26.1%)の順で、この 3 カ国で全体の 82.3%を占めている。また、10 月よりフランス産の輸入が再開されている。なお、本年 2 月 4 日には、ロシア産小麦の輸入に関する植物検疫上の地域限定について、その撤廃に合意した。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報2022年 1 月号」によれば、1 月は主要産地における政府備蓄小麦の競売が再開されたが、成約率・成約価格は高かった。その一方、一部販売業者は春節前の販売用在庫確保と、新型コロナウイルスなどの影響を受け、一部の業者が販売に消極的なため、国内小麦価格はやや上昇した。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	133.6	134.3	137.0 (137.1)	-	2.0
消 費 量	126.0	150.0	147.5 (143.0)	-	▲ 1.7
うち飼料用	19.0	40.0	35.0 (29.4)	-	▲ 12.5
輸 出 量	1.1	0.8	0.9 (1.3)	-	18.4
輸 入 量	5.4	10.6	9.5 (10.1)	-	▲ 10.5
期末在庫量	150.0	144.1	142.2 (131.3)	-	▲ 1.4
期末在庫率	118.1%	95.6%	95.8% (91.0%)	-	0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.57 (13.0)	-	0.8
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.81 (2.73)	-	1.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)
IGC 「Grain Market Report」(17 February 2022)

図 中国の小麦輸入先国(上位4ヶ国)の推移(2021年1月～同年12月)

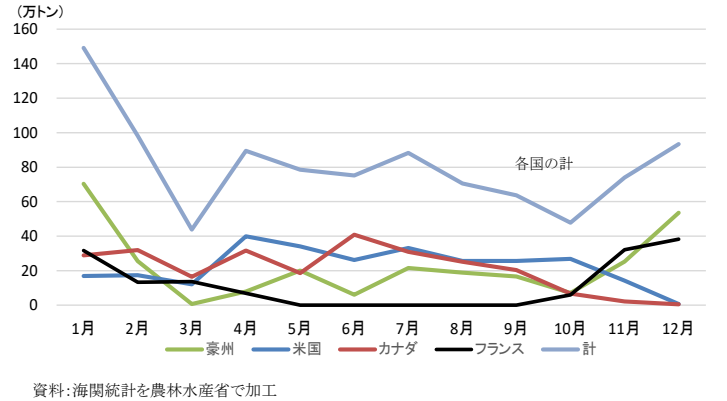


表 中国の小麦輸入先国(2021年12月、2021年1月～2021年12月、2020年1月～2020年12月)

2021年12月			2021年1月～2021年12月			2020年1月～2020年12月		
国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
豪州	53.6	57.4	豪州	273.4	28.1	フランス	238.3	29.2
フランス	38.2	40.9	米国	272.6	28.1	カナダ	229.7	28.2
米国	0.7	0.7	カナダ	254.0	26.1	米国	178.4	21.9
カナダ	0.4	0.4	フランス	141.6	14.6	豪州	109.0	13.4
カザフスタン	0.4	0.4	カザフスタン	18.7	1.9	リトアニア	33.3	4.1
その他	0.2	0.2	その他	6.6	0.7	その他	26.4	3.2
計	93.3	100.0	計	971.8	100	計	815.2	100.0

出典：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< ロシア > ウクライナ侵攻に係る経済制裁等の影響で輸出量 300 万トン下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量(クリミア地域分を含まず)が、主に冬小麦で前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、75.2 百万トンと前年度に比べ 11.9%減の見込み。

ロシア農業省の速報値によれば、2022/23 年度の冬穀物の播種面積は、12 月 17 日時点で 18.4 百万ヘクタール(前年度比 4.4%減)。ロシア気象センターによれば、冬小麦は越冬期に入っていたが、2 月は気温が平年より高くなり、南部連邦管区等では雪解けで生長が再開した圃場もあった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、ウクライナ侵攻に係る経済制裁と黒海経由の輸出制約の影響で前月予測から 3.0 百万トン下方修正され、前年度より 18.2%減の 32.0 百万トンの見込み。

なお、可変輸出関税額は、前年 8 月末から上昇を続け、12 月中旬以降 90 ドル/トンを超えた。その後 9 週連続して下落し、3 月中旬時点で 80 ドル/トン台を推移している。輸出量は、前年 8 月から 9 月にかけて 5.0 百万トン台まで増加したものの、輸出税の上昇に伴い、10 月には 2.0 百万トン台に減少した。その後、11 月に輸出量は再び増加し 3.2 百万トン、12 月は 3.0 百万トンとなった。

ロシア政府は 1 月 31 日以降、輸出関税を 3 段階の累進式に変更した。(計算例は右)

その後、2022 年 2 月 15 日から 6 月 30 日までの小麦の輸出枠を 800 万トンとし、とうもろこし、ライ麦、大麦の輸出枠計 300 万トンとあわせて、2 月 8 日には 206 業者に配分した。可変輸出関税については枠内に適用し、ユーラシア経済同盟加盟国向け輸出は対象外となった。(非加盟国向けの枠内輸出は可能)

また、2 月 4 日、植物検疫上、いままでアルタイ地域など 7 地域産に限定されていたロシア産小麦・大麦の中国向け輸出について、地域限定の解除に合意した。

ロシアがウクライナに侵攻した 2 月 24 日以降、3 月 14 日には、ユーラシア経済同盟加盟国向けの輸出と、非加盟国向けの輸出枠外の輸出を禁止した。

なお、ウクライナ侵攻に関する制裁措置により、ロシアの主要金融機関が SWIFT(銀行間の国際取引システム)から排除されたことにより、穀物の輸出について今後影響があるとみられる。

小麦—ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

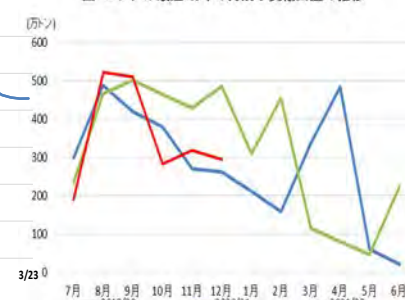
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	73.6	85.4	75.2 (75.0)	▲ 0.4	▲ 11.9
消費量	40.0	42.5	41.8 (42.4)	-	▲ 1.8
うち飼料用	17.0	19.0	18.5 (18.0)	-	▲ 2.6
輸 出 量	34.5	39.1	32.0 (33.5)	▲ 3.0	▲ 18.2
輸 入 量	0.3	0.4	0.3 (0.2)	▲ 0.2	▲ 25.0
期末在庫量	7.2	11.4	13.1 (12.2)	2.5	15.0
期末在庫率	9.7%	13.9%	17.7% (16.1%)	3.9	3.8

(参考)
 収穫面積(百万ha) 27.31 28.68 27.63 (28.0)
 単収(t/ha) 2.70 2.98 2.72 (2.68)
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(9 March 2022)
 IGC 「Grain Market Report」(17 February 2022)

図 小麦の可変輸出関税の推移



図 ロシアの最近3か年の月別小麦輸出量の推移



資料: ロシア農業省の公表資料をもとに農林水産省で作成 資料: ロシア税関統計をもとに農林水産

新方式の穀物輸出関税額の実例

例1 小麦の指標価格が390^Fの場合
 第1段階分が122.5^F。(375-200)*0.7=122.5
 第2段階分が12^F。(390-375)*0.8=12
 の合計で輸出関税額は134.5^F/トとなる。
 (現行の算定方式なら133^F)。

例2 小麦の指標価格が420^Fの場合
 第1段階分が122.5^F。
 第2段階分が20^F。
 第3段階分が18^F。(420-400)*0.9=18
 の合計で、輸出関税額は160.5^F/トとなる
 (現行の算定方式なら154^F)。

※指標価格: ロシア連邦農業省が毎週金曜日に前週の FOB(ノボロシ
 スク港)価格の平均値として算出し、輸出関税額とともに公表

＜ウクライナ＞史上最高の豊作もロシアの侵攻により輸出量400万吨下方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、大幅な減産となった前年度より29.8%増の史上最高の33.0百万トンの見込み。

ウクライナは冬小麦が主に栽培されている。2月単月では平均気温が0℃を上回り、また、12～2月の平均気温も直近5年間で最も高かった。気温の高い日中に少しずつ生長を続けた結果、越冬を終える頃には分けつが始まるまでになっていた圃場もあった。

降水量は非常に低水準だった2019年に次いで少なかったが、ある程度の土壌水分量は保たれていた。1月25日時点の調査では、冬小麦の越冬中の枯死率は2～3%に留まるとみられていた。

なお、3月のFAOの予測によれば、ロシアの侵攻に伴い、2022/23年度の小麦などの冬作物については、20%の農地で収穫が出来ず、収穫がされた農産物についても、肥料不足や収穫遅れなどから単収が10%低下するといった影響を受けるとみられている。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、国外への主要な輸送回廊である黒海の港湾がロシアの侵攻により2月最終週に閉鎖されたことから輸出が中断したため、前月予測から4.0百万トン下方修正されたものの、前年度より18.7%増の20.0百万トンを見込み。

ちなみに、USDAは、ウクライナ産とロシア産の輸出量の下方修正について、豪州産とインド産の輸出量の引き上げで部分的にカバーされると予測している。なお、インドはこれまで中東諸国やバングラデシュ等の近隣諸国向けが多かったが、アフリカ諸国等にも輸出すると見られる。

一方、世界第1位の小麦輸入国であるエジプトは、ロシア、ルーマニア、ウクライナから多くの小麦を輸入してきたが、ロシアのウクライナ侵攻による小麦の国際価格の上昇から、輸入小麦の水分含有量の限度を13%から13.5%に引き上げる等の緩和措置等を行うとともに、米国、カザフスタン、他のEU諸国に輸入先国を広げ、輸入の多様化を図ると見られる。

小麦－ウクライナ (主に冬小麦を栽培) (単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	29.2	25.4	33.0	(33.0)	－	29.8
消費量	8.3	8.7	9.6	(8.6)	1.0	10.3
うち飼料用	2.2	2.6	3.5	(2.4)	1.0	34.6
輸出量	21.0	16.9	20.0	(24.5)	▲ 4.0	18.7
輸入量	0.1	0.1	0.1	(0.1)	－	▲ 23.1
期末在庫量	1.5	1.5	5.0	(1.5)	3.0	231.8
期末在庫率	5.1%	5.9%	16.9%	(4.5%)	10.8	11.0
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.02	6.85	7.40	(7.40)	－	8.0
単収(t/ha)	4.16	3.71	4.46	(4.46)	－	20.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)

IGC 「Grain Market Report」(17 February 2022)

図 ウクライナの小麦生産量の推移

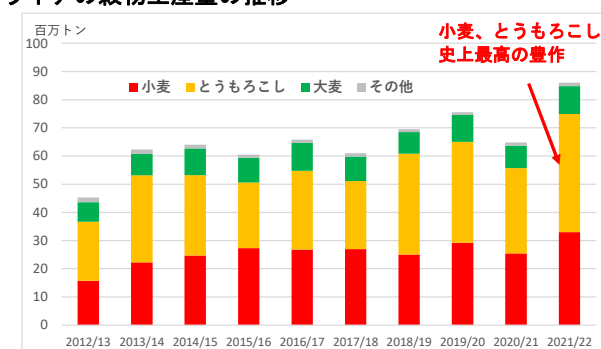


図 ウクライナの小麦生産地

出典: 米国農務省「PS&D」(2022.3)より加工



資料: USDA Global Crop Production Maps by Region

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチン、南アフリカ等で下方修正も、インド、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

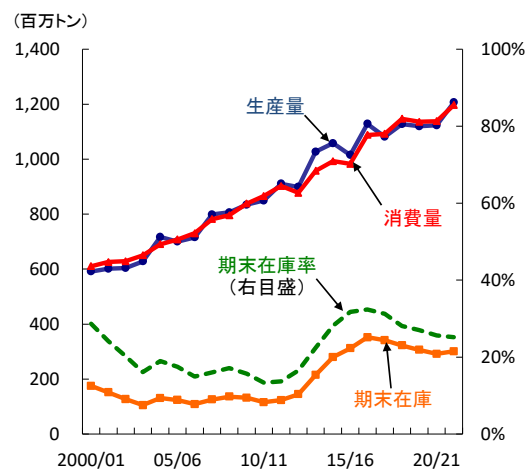
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・エジプト等で下方修正も、ウクライナ、インド、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・米国、インド等で上方修正も、ウクライナで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2022.3.9)をもとに農林水産省にて作成

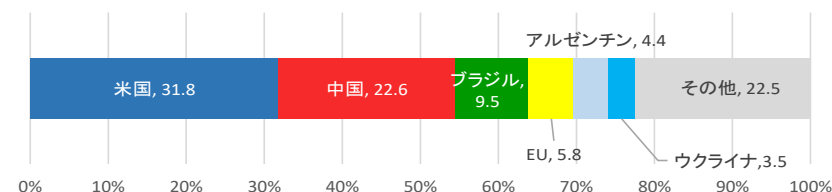
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

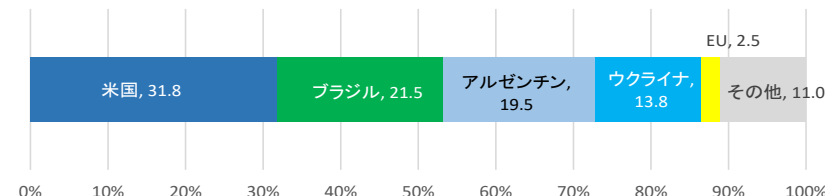
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,119.6	1,123.3	1,206.1	0.8	7.4
消 費 量	1,135.6	1,138.2	1,196.6	1.4	5.1
うち飼料用	715.6	721.6	753.5	1.6	4.4
輸 出 量	172.3	181.8	199.9	▲ 3.8	10.0
輸 入 量	167.7	185.7	185.6	▲ 2.5	▲ 0.0
期末在庫量	306.3	291.5	301.0	▲ 1.3	3.3
期末在庫率	27.0%	25.6%	25.2%	▲ 0.1	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 March 2022)

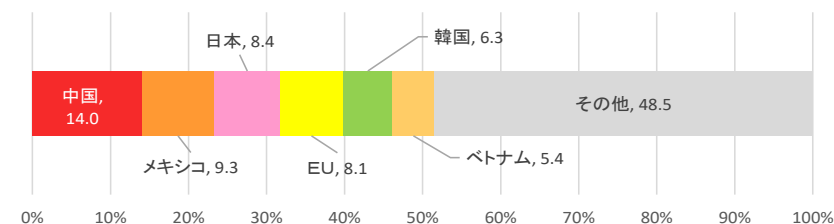
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,206.1百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(199.9百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(185.6百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 生産量史上第2位、エタノール用需要増、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の単収となったことから前年度より 7.1%増の 383.9 百万トンと 2016/17 年度に次ぐ史上第2位の見込み。前年 11 月末時点で、収穫は例年より早いペースでほぼ終了。

【需要状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、エタノール用需要が 1～2 月の旺盛なエタノール生産データを反映し前月予測から 0.6 百万トン上方修正され、前年度より 3.0%増の 315.9 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、ウクライナの輸出量の大幅な下方修正（6.0 百万トン）の一部を代替するとの期待から前月予測から 1.9 百万トン上方修正され、史上最高の輸出量となった前年度より 9.2%減の 63.5 百万トンの見込み。

USDA によれば、2022 年輸出検証高（2022 年 1 月 6 日～3 月 3 日）は、11.5 百万トンであり、内訳は中国（3.3 百万トン）、メキシコ（2.9 百万トン）、日本（2.5 百万トン）、コロンビア（1.0 百万トン）の順である。

USDA によれば、2021/22 年度の期末在庫量は、消費量及び輸出量の上方修正に伴い、前月予測から 2.5 百万トン下方修正されたものの、前年度より 16.6%増の 36.6 百万トンの見込み。なお、期末在庫率は 9.6%で依然として低水準の見込み。

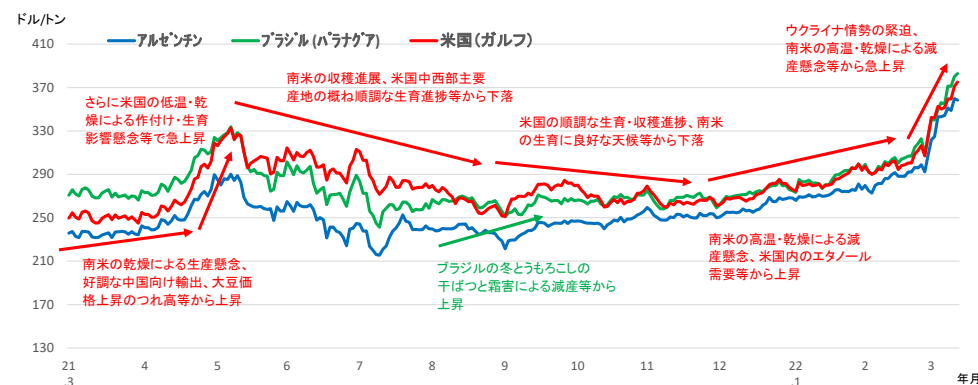
とうもろこし—米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	346.0	358.5	383.9	—	7.1
消 費 量	309.6	306.5	315.9	0.6	3.0
うち飼料用	149.9	142.2	143.5	—	0.9
エタノール用等	123.4	127.8	135.9	0.6	6.3
輸 出 量	45.1	69.9	63.5	1.9	▲ 9.2
輸 入 量	1.1	0.6	0.6	—	3.2
期末在庫量	48.8	31.4	36.6	▲ 2.5	16.6
期末在庫率	13.7%	8.3%	9.6%	▲ 0.7	1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.92	33.31	34.56	—	3.8
単収(t/ha)	10.51	10.76	11.11	—	3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 南部の高温・乾燥の影響も、生産量史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の実産量は、前年11月から2月の南部の主要産地（パラナ州、リオ・グランデ・ド・スール州等）の高温・乾燥の影響で夏とうもろこしが生産減となったものの、大豆収穫後に作付け中の冬とうもろこしの生産増見通しから、前月予測からの変更はなく、前年度より31.0%増の114.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）月例報告（2022.3.10）によれば、2021/22年度の夏とうもろこしの生産量は、南部産地を中心に深刻な高温・乾燥の影響を受け前月予測から0.1百万トン下方修正され、前年度比1.6%減の24.3百万トンの見込み。一方、冬とうもろこしの生産量は、干ばつ・霜害の影響で大幅減産となった前年度に比べ41.2%増の88.0百万トンが見込まれ、合計では前年度比29.0%増の112.3百万トンで史上最高の見込み。（P.23 大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照）。

南部のパラナ州で3月7日現在、夏とうもろこしの収穫進捗率は64%。南部のリオ・グランデ・ド・スール州で3月10日現在、収穫進捗率は64%。中西部のマット・グロッソ州では例年より早い大豆の収穫により、3月11日現在、冬とうもろこしの作付進捗率は過去5年平均より2ポイント早い98%となっている。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、依然として飼料用消費の増加に伴い、前年度より4.3%増の72.5百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、大幅減産となった前年度より2倍の43.0百万トンで史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022年1～2月の輸出量は3.4百万トンで、前年同期（3.1百万トン）と比べ10.5%増となっている。内訳は、1位がイラン72万トン、2位がエジプト69万トン、3位が韓国58万トン。

とうもろこしーブラジル

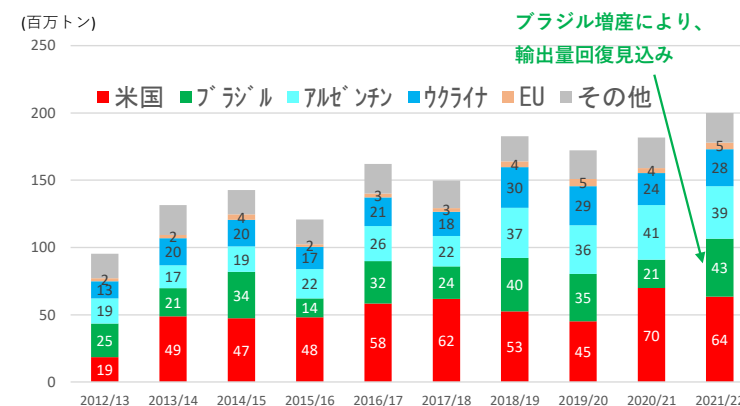
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4）

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	102.0	87.0	114.0 (111.5)	-	31.0	
消 費 量	68.5	69.5	72.5 (74.1)	-	4.3	
うち飼料用	58.5	59.0	61.5 (53.8)	-	4.2	
輸 出 量	35.1	21.0	43.0 (37.8)	-	104.8	
輸 入 量	1.7	2.9	2.0 (0.7)	-	▲ 31.0	
期末在庫量	5.3	4.7	5.2 (6.4)	▲ 0.1	10.6	
期末在庫率	5.1%	5.2%	4.5% (5.7%)	▲ 0.1	▲ 0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	18.50	19.90	20.80 (20.90)	-	4.5	
単収(t/ha)	5.51	4.37	5.48 (5.34)	-	25.4	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)
IGC「Grain Market Report」(17 February 2022)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2022.3.9)のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 高温・乾燥も、生産量史上最高、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、3 月上旬には降雨があったものの、これまでの高温・乾燥による単収低下を改善するには遅すぎたことから前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、前年度より 2.9%増の 53.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2022.3.17）によれば、収穫進捗率は 7 %で過去 5 年平均より 3 ポイント遅れている。作柄は良からやや良が 80%と前週（79%）より改善。

【需要状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より 3.7%増の 14.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度より 3.9%減の 39.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2022 年 1 月の輸出量は 176 万トンで、前年同期（168 万トン）より 4.8%増。内訳は、1 位が韓国 39 万トン、2 位がチリ 23 万トン、3 位がペルー 20 万トン。前年 7 月 26 日に発令された 180 日間のパラナ川の渇水の緊急事態宣言は前年末に終了したものの、パラナ川の水位は依然として低下傾向が続き、アルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7 %から 12 %へ引き上げ、その後継続している。

2021 年 12 月 17 日、アルゼンチン農牧漁業大臣が 2021/22 年度のとうもろこしと小麦の輸出に関し、輸出上限数量を設定することを表明。同省プレスによれば、とうもろこしの輸出上限数量は 4,160 万トンで国内需給に影響しない量としている。

とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生 産 量	51.0	51.5	53.0 (59.0)	▲ 1.0	2.9	
消 費 量	13.5	13.5	14.0 (20.9)	-	3.7	
うち飼料用	9.5	9.5	10.0 (16.0)	-	5.3	
輸 出 量	36.3	40.6	39.0 (35.3)	-	▲ 3.9	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	3.6	1.0	1.0 (7.0)	▲ 1.4	1.0	
期末在庫率	7.3%	1.9%	1.9% (12.5%)	▲ 2.6	0.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.30	6.50	7.00 (8.30)	0.20	7.7	
単収(t/ha)	8.10	7.92	7.57 (7.11)	▲ 0.37	▲ 4.4	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)
IGC 「Grain Market Report」(17 February 2022)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこしの生育風景 （3月3日撮影）

現在は成熟期で、収穫は3月中旬の予定。高温乾燥の影響を受けた。



< 中国 > 生産量史上最高、消費量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、大豆から収益性の良いとうもろこしの作付けにシフトしたことで収穫面積が増加したことから、前年度より4.6%増の272.6百万トンと史上最高の見込み。前年11月上旬時点で、収穫は終了。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な飼料用消費から前年度より3.2%増の294.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より11.9%減の26.0百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸入量は、29.5百万トンと史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～12月の輸入量は28.4百万トンで、前年同期の2.5倍。内訳は、米国産19.8百万トン（70%）、ウクライナ産8.2百万トン（29%）で、前年はウクライナ産が56%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加した。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022年1月号」によると、1月の国内流通価格は、1月前半の継続的な降雨の影響で産地でのとうもろこしの保管が困難になったことにより農家の販売意欲は高く、市場への供給は十分であったことから、2,800元/トンと前月（2,820元/トン）からやや下落した。また、1月の外国産価格は2,540元/トンと前月（2,480元/トン）から上昇した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

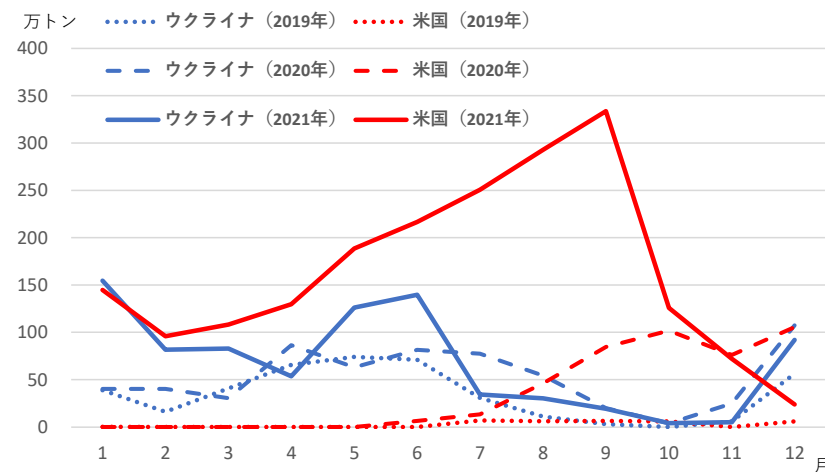
とうもろこし—中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	260.8	260.7	272.6 (272.6)	-	4.6	
消費量	278.0	285.0	294.0 (295.2)	-	3.2	
うち飼料用	193.0	203.0	214.0 (193.0)	-	5.4	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	7.6	29.5	26.0 (16.5)	-	▲ 11.9	
期末在庫量	200.5	205.7	210.2 (188.2)	-	2.2	
期末在庫率	72.1%	72.2%	71.5% (63.7%)	-	▲ 0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	43.32 (43.32)	-	5.0	
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.29 (6.29)	-	▲ 0.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)
IGC「Grain Market Report」(17 February 2022)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< ウクライナ > 紛争による黒海の港閉鎖の影響等で輸出量 6.0 百万トン下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、ウクライナ統計委員会の発表に基づき前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、干ばつの影響で大幅減産となった前年度に比べ単収が増加したことから、前年度より 38.3%増の 41.9 百万トンの見込み。

【需要状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、輸出量の下方修正を一部代替する形で前月予測から 3.0 百万トン上方修正され、前年度より 53.5%増の 10.9 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、ロシアの侵攻開始以降黒海の港が閉鎖された影響等から前月予測から 6.0 百万トン下方修正されたものの、前年度より 15.3%増の 27.5 百万トンの見込み。この下方修正の少なくとも 3 つの要因は、USDA「Feed Outlook」(2022.3.11)によれば、①ロシアの軍事行動で、穀物備蓄の施設が被災、②ロシアの侵攻で穀物インフラや輸送インフラに被害を与え、黒海の輸出港への輸送が困難、③(最大の要因)ロシアの侵攻後、すぐに黒海の輸出港が閉鎖されたことである。

ウクライナの貿易統計によれば、2021 年 10 月～2022 年 2 月の輸出量は 17.9 百万トン。内訳は、中国 5.5 百万トン (31%)、スペイン 2.6 百万トン (14%)、エジプト 1.3 百万トン (8%)、オランダ 1.3 百万トン (7%) となっている。

USDA によれば、2021/22 年度の期末在庫量は、輸出量の下方修正が消費量の上方修正を上回ることから、前月予測から 2.9 百万トン上方修正され、前年度より 5 倍以上の 4.4 百万トンの見込み。なお、輸出できないとうもろこしの多くがウクライナに残るが、このとうもろこしの半分は破壊されるか、使用に適さなくなる可能性が高いため、将来も輸出されないと予想され、残りのとうもろこしは在庫にされる見込み。

なお、3 月の FAO の予測によれば、ロシアの侵攻に伴い、2022/23 年度のとうもろこしやひまわりなどの春作物についても、30%の農地で作付けが困難となり、単収も 20%低下するといった影響を受けるとみられている。

とうもろこしーウクライナ

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	35.9	30.3	41.9 (40.0)	▲ 0.1	38.3	
消 費 量	6.4	7.1	10.9 (7.7)	3.0	53.5	
うち飼料用	5.2	5.9	9.7 (6.5)	3.0	64.4	
輸 出 量	28.9	23.9	27.5 (32.5)	▲ 6.0	15.3	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	1.5	0.8	4.4 (1.8)	2.9	424.1	
期末在庫率	4.2%	2.7%	11.3% (4.5%)	7.8%	8.6	

(参考)

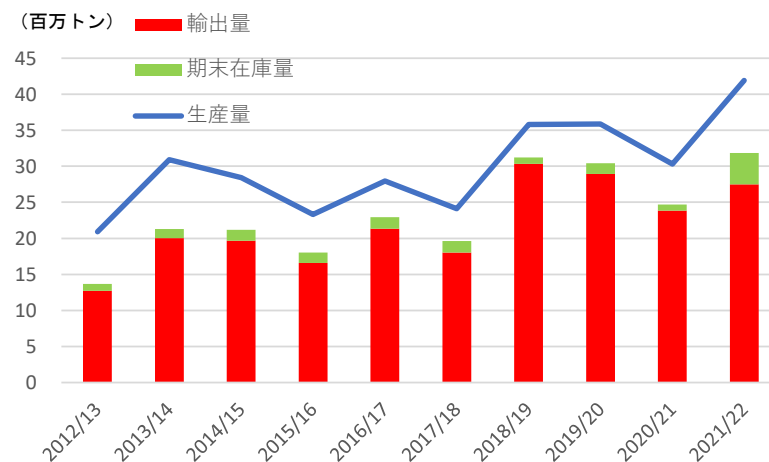
収穫面積(百万ha)	4.99	5.40	5.47 (5.43)	0.17	1.3
単収(t/ha)	7.19	5.62	7.67 (7.37)	▲ 0.25	36.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 March 2022)

IGC「Grain Market Report」(17 February 2022)

図：ウクライナ産とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移



資料：USDA「PS&D」(2022.3.9)をもとに農林水産省にて作成。

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

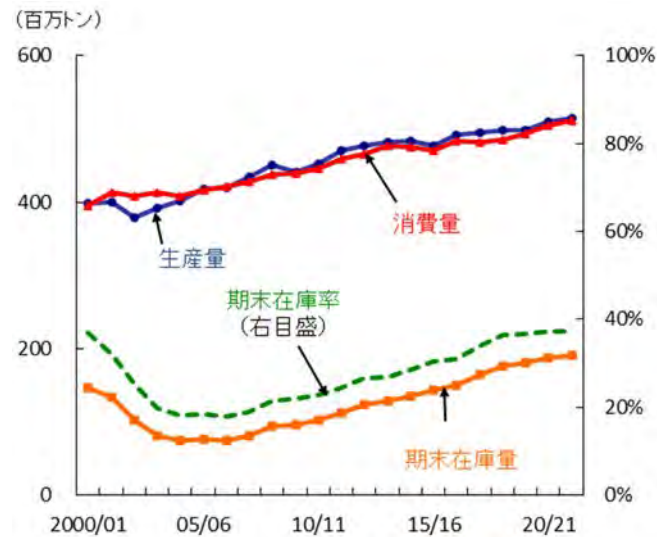
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2022.3.9）をもとに農林水産省にて作成

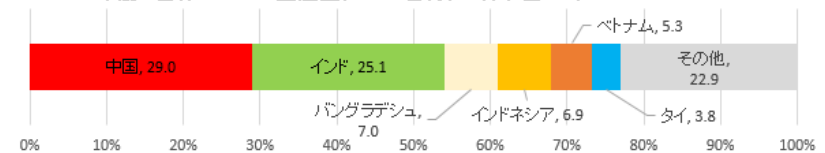
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

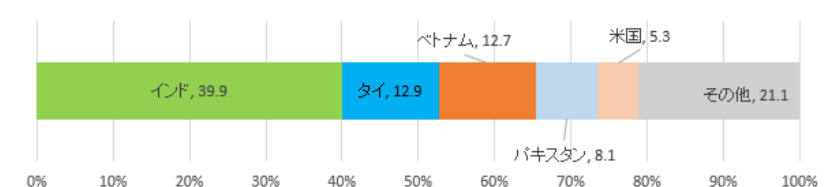
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	498.8	509.7	514.1	3.8	0.9
消 費 量	493.7	503.9	511.1	0.7	1.4
輸 出 量	43.4	50.7	51.3	0.5	1.3
輸 入 量	42.4	46.4	50.1	0.4	8.0
期末在庫量	181.7	187.5	190.5	4.2	1.6
期末在庫率	36.8%	37.2%	37.3%	0.8	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 March 2022)

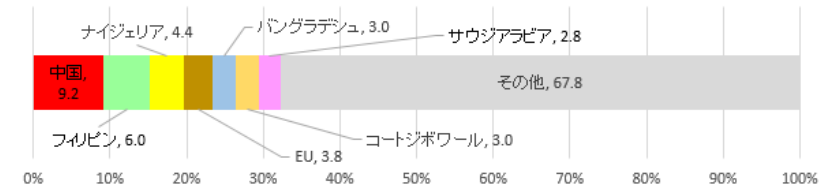
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量(514.1百万トン)(単位：%)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(51.3百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(50.1百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 中粒種の輸出価格が史上最高値の 1,350 ドル/トン

【生育・生産動向】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 15.7%減の 6.1 百万トンの見込み。収穫面積が減少したのは、ミシシッピ川下流域で作付け時期にとうもろこしと大豆の価格がより有利になると予測されたこと、カリフォルニア州で深刻な干ばつが発生したこと、南部で春先まで降雨が続く作付けが減少したことなどが要因。なお、単収は 8.64 もみトン/ヘクタールのままで依然として史上最高。中・短粒種の生産量はコメ全体の約 25%を占める。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 4.7%減の 4.6 百万トンの見込み。2021/22 年度の輸出量は、前月予測からわずかに下方修正され、対前年度比 8.4%減の 2.7 百万トンの見込み。2021/22 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 10.2%減の 1.0 百万トンの見込み。」

2021/22 年度の期末在庫量は、輸出量がわずかに下方修正されたことで、前月予測からわずかに上方修正され、対前年度比 20.9%減の 1.1 百万トンの見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」(2022.3.9)によれば、中粒種の輸出価格が昨年より 40%以上上昇し、史上最高値となる 1,350 ドル/トンに高騰した。中粒種の価格上昇の要因は、米国内の中粒種の大部分を生産するカリフォルニア州で、2021 年に深刻な干ばつが発生した影響で、生産量が約 18%減少したことによる。カリフォルニア州における水の供給量や農業投入材のコスト高は、2022/23 年度も引き続いて課題である。

3月8日までの週のイラク向け長粒種（2等、碎米4%混入）の価格については、前月から 45 ドル上昇し、655 ドル/トン（P19 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。

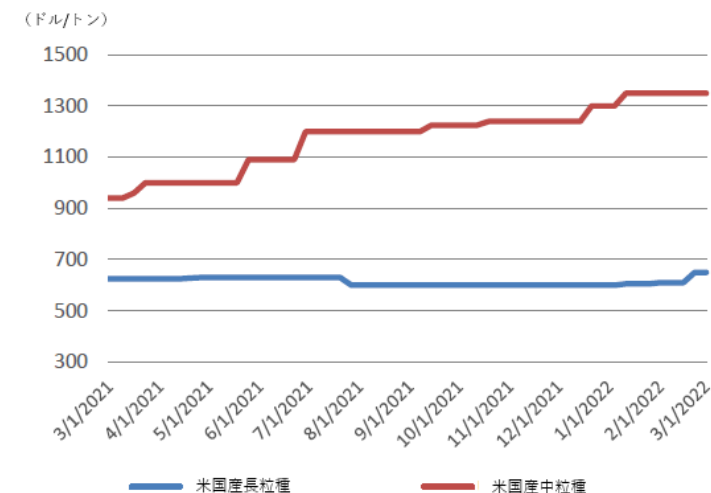
コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは約 25%
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2割

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.9	7.2	6.1	-	▲ 15.7
消費量	4.6	4.9	4.6	-	▲ 4.7
輸出量	3.0	3.0	2.7	▲ 0.0	▲ 8.4
輸入量	1.2	1.1	1.0	-	▲ 10.2
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	0.0	▲ 20.9
期末在庫率	12.0%	17.8%	14.4%	0.6	▲ 3.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.01	-	▲ 16.5
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.64	-	1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)

図：米国产中粒種及び長粒種の価格の推移（2021/22 年）



資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」(2022.3.9)

< インド > 2021/22 年度の生産量が 129 百万トンで史上最高

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22 年度の実生産量は、収穫面積が 1.5 百万トン上方修正されたことにより、前月予測から 4.0 百万トン上方修正され、対前年度比 3.7%増の 129.0 百万トンで史上最高の見込み。

インド農業農民福祉省「2021/22 年第 2 回生産量推計」（2022.2.25）によれば、2021/22 年度のコメ生産量は 127.9 百万トンの見込みであり、その内訳はカリフ作が 109.5 百万トン、ラビ作が 18.4 百万トンとなっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22 年度の実消費量は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、対前年度比 2.4%増の 103.5 百万トンで史上最高の見込み。

2021/22 年度の輸出量は、史上最高の生産量や豊富な在庫量、競争力の高い価格により、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、対前年度比 1.5%増の 20.5 百万トンで史上最高の見込み。世界の輸出量シェアの約 4 割を占める。

2021/22 年度の期末在庫量は、生産量が上方修正されたことにより、前月予測から 4.0 百万トン上方修正され、対前年度比 13.5%増の 42.0 百万トンで史上最高の見込み。なお、インドの期末在庫量は世界全体の約 2 割を占める見通し。

インド商務省の輸出量データによれば、2021 年 4 月～2022 年 1 月の累積輸出量は 1,704.3 万トンであり、輸出量の多い国の上位はバングラデシュ（159.7 万トン）、ネパール（117.3 万トン）、中国（110.9 万トン）になっている。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2022.3.9）によれば、インド産米（碎米 5%混入）の 3 月 8 日までの週の価格は、前月から 5 ドル上昇して 360 ドル/トンとなったが、アジアの主要輸出国であるタイ、ベトナム、パキスタン、インドの中でパキスタンに次いで低価格である、(P19 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。

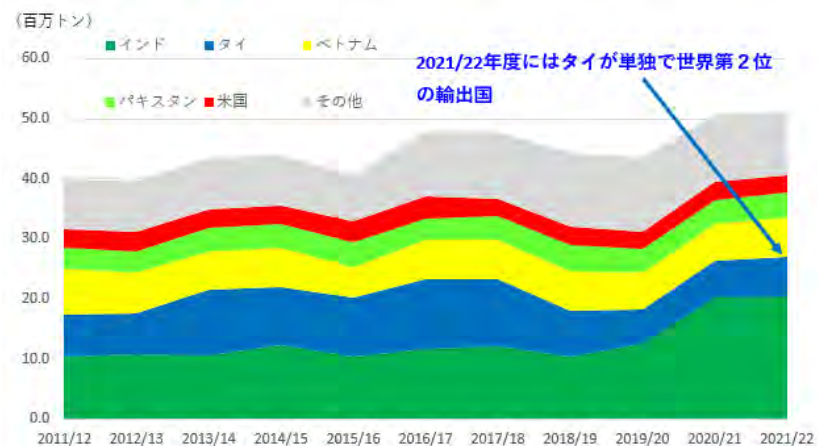
コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()は IGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生 産 量	118.9	124.4	129.0 (124.5)	4.0	3.7	
消 費 量	102.0	101.1	103.5 (104.0)	0.5	2.4	
輸 出 量	12.5	20.2	20.5 (18.4)	0.5	1.5	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	33.9	37.0	42.0 (38.2)	4.0	13.5	
期末在庫率	29.6%	30.5%	30.9% (31.2%)	3.0	0.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.66	45.40	47.00 (45.75)	1.50	3.5	
単収(もみt/ha)	4.08	4.11	4.12 (2.72)	-	0.2	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)
IGC「Grain Market Report」(17 February 2022) (単収は精米t/ha)

図：世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2022. 3. 9)をもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 2022 年は黒龍江省等で作付面積を削減する計画

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の149.0百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.0%増の154.8百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比9.0%増の4.6百万トンの見込み。2021/22年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.0%減の113.0百万トンの見込み。なお、世界の期末在庫量の約6割を中国が占める見通し。

また、中国中央气象台（2022.3.3）によれば、2月下旬から全国の大部分の農産地で春撒き作物の播種が始まり、南から北へと5月上中旬まで継続される見込み。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報1月号」によれば、1月、全国平均品種別買付価格は、春節が近づくにつれて米加工業者等が次々と休暇に入り、買付量が徐々に減少したことでインディカ米価格は安定した。一方で、農家による春節前の販売意欲が高まったことで、流通量が増加しジャポニカ米価格は小幅に下落した。全国平均品種別米卸売価格は、米加工業者の稼働率が低かったことや市場在庫が十分であったことでインディカ米の価格は安定していた。一方で、昨年11月以降、黒龍江省等の中国東北部の鉄道による輸送コストの低下により、同地域産ジャポニカ米の流通量が増加しているため市場価格は下落した。2022年1月の全国平均品種別米卸売価格は、早稲インディカ米は3,780元/トン（前月同）、晩稲インディカ米4,060元/トン（前月同）、一期作ジャポニカ米4,060元/トン（前月より1.0%下落）になっている。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	146.7	148.3	149.0	(149.5)	-	0.5
消 費 量	145.2	150.3	154.8	(151.0)	-	3.0
輸 出 量	2.6	2.2	2.3	(2.6)	-	1.4
輸 入 量	2.6	4.2	4.6	(3.8)	-	9.0
期末在庫量	116.5	116.5	113.0	(109.0)	-	▲ 3.0
期末在庫率	78.8%	76.4%	71.9%	(71.0%)	-	▲ 4.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	29.92	(30.00)	-	▲ 0.5
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.11	(4.98)	-	1.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)

IGC「Grain Market Report」(17 February 2022) (単収は精米t/ha)

写真: 黒龍江省水稻圃場の3月上旬の風景



左: 水稻圃場の遠景、右: 水稻育苗ビニールハウスの組立

水稻圃場は越冬期に入っており、土壌の水分含有量は例年並み。当面、水稻育苗ビニールハウスを組み立てており、3月末に水稻育苗作業に入る予定であるという。

< タイ > 輸出量の上方修正により単独で世界第2位のコメ輸出国

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度(2022年1月～同年12月)の生産量は、収穫面積及び単収が上方修正されたことにより0.4百万トン上方修正され、対前年度比4.5%増の19.7百万トンの見込み。2020/21年度(2021年1月～同年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比6.8%増の18.9百万トンの見込み。

タイ農業経済局「農業経済 2021年12月号」によれば、乾季作米は2022年2月～10月にかけて出荷される見通し。最も多く出荷されるのは2022年3月から4月にかけてであり、全体の出荷量の59.1%に当たる389.9万トンが出荷される見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量が上方修正されたことから0.1百万トン上方修正され、対前年度比8.9%増の6.6百万トンの見込み。2021/22年度のタイは、ベトナムの輸出量(6.5百万トン)を凌ぎ、インドに次ぐ世界第2位のコメ輸出国となる見通し。

タイ米輸出業協会の発表によれば、2022年1月の輸出量は対前年同月比9.1%増であるが、対前月比36.9%減の46.0万トンとなった。これは主要な輸出先国が十分な在庫を確保していたためであり、2月の輸出量は約60万トンになると予測している。また同協会は、コンテナ不足や運賃など物流面の問題は緩和され始めているとみている。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2022.3.9)によれば、3月8日までの週のタイ産米(長粒、2等丸米)の輸出価格は、パーツ安や引き合いの減少を反映して、前月より5ドル安い424ドル/トンとなっている(P19の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

コメ・タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	17.7	18.9	19.7	(19.3)	0.4	4.5
消 費 量	12.3	12.7	13.0	(11.8)	-	2.4
輸 出 量	5.7	6.1	6.6	(7.8)	0.1	8.9
輸 入 量	0.3	0.2	0.2	(0.3)	-	-
期末在庫量	4.0	4.3	4.6	(6.6)	0.3	7.0
期末在庫率	22.1%	22.8%	23.4%	(33.8%)	1.4	0.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	9.89	10.51	10.60	(10.40)	0.20	0.9
単収(もみt/ha)	2.70	2.72	2.82	(1.86)	0.01	3.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (9 March 2022)
IGC 「Grain Market Report」 (17 February 2022) (単収は精米t/ha)

写真: スパンブリー県の水稲圃場



2022年1月7日に田植えをしてから約2か月後の3月上旬の様子

< ベトナム > 2022 年の冬春作の収穫進捗率は 11.4%

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.1%増の 27.4 百万トンの見込み。2021/22 年度(2022 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 0.7%減の 27.2 百万トンの見込み。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2022.3.1)によれば、ベトナム北部に季節外れの降雨が確認され、播種前に土壌水分量が改善されたことで冬春作の生長が期待される見込み。

ベトナム農業・農村開発省(2022.3.10)によれば、2022 年の冬春作の収穫進捗率は 11.4%で、収穫量は 1.9 百万もみトン。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.7%増の 6.5 百万トンの見込み。2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.6%増の 6.3 百万トンの見込み。

2021/22 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 66.7%減の 0.6 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度にベトナムが例外的に大量のコメを輸入したことから、2021/22 年度の対前年度比は大幅に減少している。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2022.3.9)によれば、ベトナム産米(長粒種、5%碎米混入)の 3 月 8 日までの週の価格は、タイトな供給量により前月から 8 ドル上昇して 400 ドル/トンとなったが、依然としてタイ産米よりも低価格である。

ベトナム税関総局によれば、2022 年 1 月の輸出量は 50.6 万トンであり、上位からフィリピン(23.4 万トン)、コート・ジボワール(6.0 万トン)、中国(3.7 万トン)の順になっている。そのうちジャポニカ米は対前年同期比 65.3%減の 2.2 万トンになっている。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

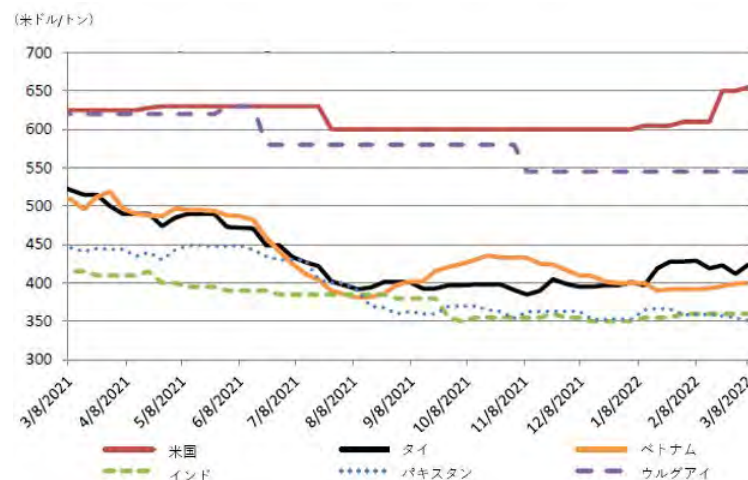
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	27.1	27.4	27.2 (28.3)	-	▲ 0.7	
消費量	21.3	21.5	21.5 (23.0)	-	0.2	
輸出量	6.2	6.3	6.5 (6.4)	-	3.7	
輸入量	0.4	1.8	0.6 (1.0)	-	▲ 66.7	
期末在庫量	1.2	2.6	2.4 (3.1)	-	▲ 8.0	
期末在庫率	4.3%	9.5%	8.7% (10.4%)	-	▲ 0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.38	7.31	7.30 (7.45)	-	▲ 0.1	
単収(もみt/ha)	5.88	6.00	5.96 (3.80)	-	▲ 0.7	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 March 2022)

IGC「Grain Market Report」(17 February 2022) (単収は精米t/ha)

図: 長粒種の FOB 価格の推移 (ベトナム産とタイ産の価格差が拡大)



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2022.3.9)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ等で下方修正され、前月から下方修正された。

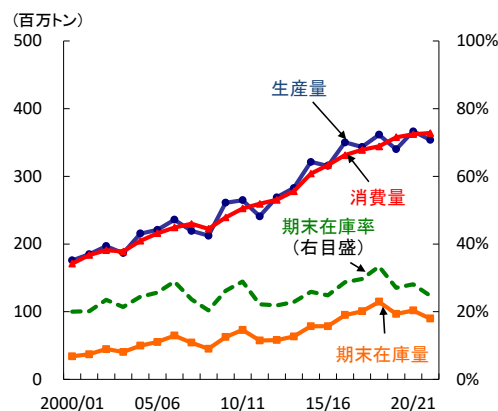
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・中国、ブラジル等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出货量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・米国等で上方修正も、ブラジル、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2022.3.9)をもとに農林水産省で作成

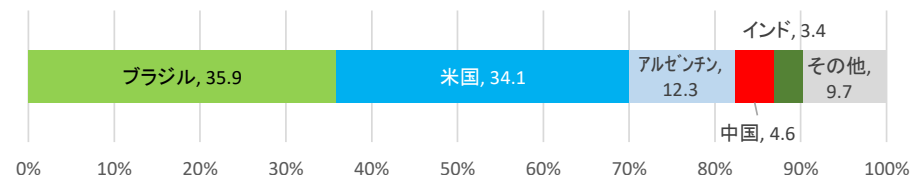
◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

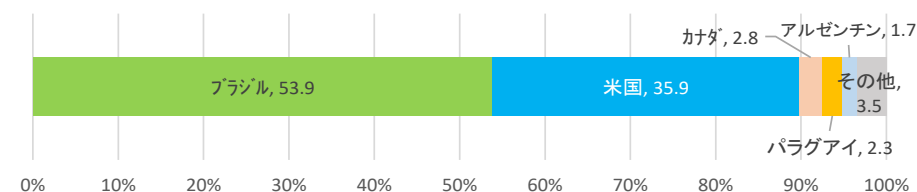
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	339.9	366.2	353.8	▲ 10.1	▲ 3.4
消費量	357.7	362.1	363.7	▲ 5.5	0.4
うち搾油用	312.1	315.2	315.3	▲ 5.0	0.0
輸 出 量	165.2	164.5	158.6	▲ 6.4	▲ 3.6
輸 入 量	165.1	165.2	156.7	▲ 6.0	▲ 5.2
期末在庫量	96.8	101.7	90.0	▲ 2.9	▲ 11.6
期末在庫率	27.1%	28.1%	24.7%	▲ 0.4	▲ 3.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 March 2022)

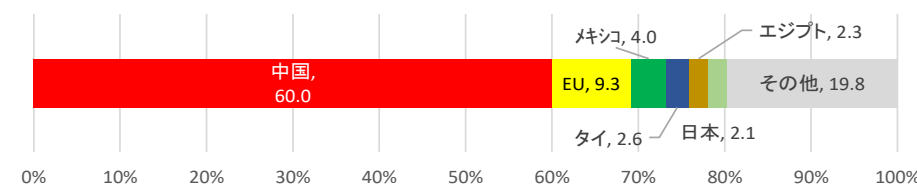
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (353.8 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出货量 (158.6 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (156.7 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 生産量は史上最高も、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.2%増の120.7百万トンと史上最高の見込み。なお、単収は2016/17年度に次ぐ史上第2位となっている。前年11月末時点で、収穫は例年並みのペースでほぼ終了した。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の実消費量は、その他需要が前月予測からわずかに下方修正されたものの、旺盛な搾油用需要から、前年度より3.9%増の63.5百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の実輸出量は、ブラジル産に比べ米国産が安価なことや南米産大豆の減産見通しを背景に前月予測から1.1百万トン上方修正され、史上最高の輸出量となった前年度より7.5%減の56.9百万トンの見込み。

USDAによれば、2022年輸出検証高(2022年1月6日～3月3日)は、10.5百万トンであり、内訳は中国(5.5百万トン)、メキシコ(0.9百万トン)、エジプト(0.7百万トン)、イタリア(0.6百万トン)、日本(0.5百万トン)の順。

USDAによれば、2021/22年度の実在庫量は、輸出量の上方修正に伴い前月予測から1.1百万トン下方修正され、前年度より11.2%増の7.8百万トンの見込み。期末在庫率は6.5%で依然として低水準の見込み。

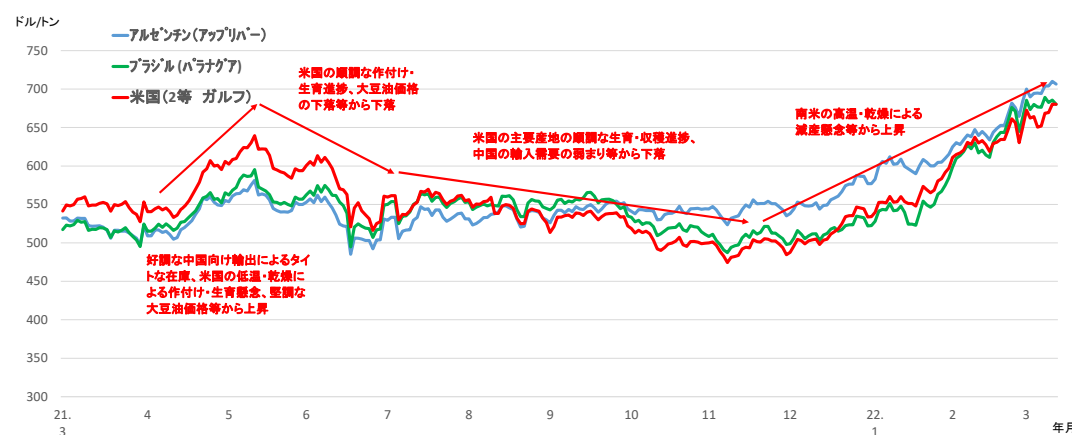
大豆－米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	96.7	114.8	120.7	－	5.2
消 費 量	61.9	61.1	63.5	▲ 0.0	3.9
うち搾油用	58.9	58.3	60.3	－	3.5
輸 出 量	45.7	61.5	56.9	1.1	▲ 7.5
輸 入 量	0.4	0.5	0.4	－	▲ 24.1
期末在庫量	14.3	7.0	7.8	▲ 1.1	11.2
期末在庫率	13.3%	5.7%	6.5%	▲ 1.0	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.33	33.43	34.94	－	4.5
単収(t/ha)	3.19	3.43	3.45	－	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 南部の高温・乾燥で単収下方修正、生産量は減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、北部と中西部の主産地では継続した降雨があったものの、南部産地（パラナ州、リオ・グランデ・ド・スール州、マット・グロッソ・ド・スール州等）の高温・乾燥が1～2月も継続した影響で成熟期の大豆の単収がさらに下方修正されたことにより、前月予測から7.0百万トン下方修正され、前年度より8.0%減の127.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告（2022.3.10）によれば、2021/22年度の実生産量は、南部の州を中心に深刻な高温・乾燥の影響を受け前月予測から2.7百万トン下方修正され、前年度より11.1%減の122.8百万トンの見込み。

最大生産州である中西部マット・グロッソ州では3月11日現在、収穫率は97%で、過去5年平均より6ポイント早い。南部のパラナ州では3月7日現在、収穫率は54%となっている。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から搾油用消費量が0.6百万トン下方修正され、前年度より1.0%減の48.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から5.0百万トン下方修正されたものの、前年度より4.7%増の85.5百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2022年1～2月の輸出量は8.7百万トンで、例年より収穫が遅れた前年同期（2.7百万トン）に比べ3.2倍となっている。内訳は、1位が中国6.3百万トン、2位がスペイン0.5百万トン、3位がタイ0.3百万トンとなっている。

大豆ーブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	128.5	138.0	127.0 (126.5)	▲ 7.0	▲ 8.0
消費量	49.4	49.4	48.9 (46.6)	▲ 0.6	▲ 1.0
うち搾油用	46.7	46.8	46.3 (44.0)	▲ 0.6	▲ 1.1
輸出量	92.1	81.7	85.5 (82.1)	▲ 5.0	4.7
輸入量	0.6	1.0	0.5 (0.3)	-	▲ 55.9
期末在庫量	20.0	28.0	21.0 (0.6)	▲ 1.4	▲ 24.9
期末在庫率	14.1%	21.3%	15.6% (0.5%)	▲ 0.3	▲ 5.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.90	38.90	40.60 (40.40)	0.20	4.4
単収(t/ha)	3.48	3.55	3.13 (3.13)	▲ 0.19	▲ 11.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)
IGC「Grain Market Report」(17 February 2022)

写真：中西部マット・グロッソ州の大豆の収穫風景 (3月1日撮影)



ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2021/22年度	2021年												2022年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等												収穫 24.3(百万t)								
	作付 4.5(百万ha)												収穫 88.0(百万t)								
冬とうもろこし	マット・グロッソ州、パラナ州等												作付 16.6(百万ha)								
	作付面積夏冬計 21.1百万ha												収穫 122.8(百万t)								
大豆	作付 40.7(百万ha)												収穫 122.8(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート（2022.3.10）

＜ アルゼンチン ＞ 高温・乾燥で面積・単収下方修正、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、3月上旬には降雨があったものの、2月の高温・乾燥による作柄悪化を改善するには遅すぎたため前月予測から1.5百万トン下方修正され、前年度より5.8%減の43.5百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2022.3.17）によれば、最近の降雨は多くの地域で継続し、作柄は良からやや良が83%で前週（80%）から改善。収穫作業は北部地域から始まっているが、初期単収は過去5年平均より低い傾向にある。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からその他消費量がわずかに上方修正され、前年度より0.4%減の47.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から1.0百万トン下方修正され、前年度より47.1%減の2.8百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2022年1月の輸出量は0.3万トンで、前年同期（1.1万トン）より70.4%減。内訳は、1位がチリ0.2万トンとなっている。前年7月26日に発令された180日間のパラナ川の渇水の緊急事態宣言は前年末に終了したものの、パラナ川の水位は依然として低下傾向が続き、アルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチンは、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆油及び大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021年1月以降、輸出税を大豆最大33%、大豆油及び大豆粕31%に設定。さらに、2022年3月19日付けアルゼンチン農牧漁業省プレスによれば、大豆油及び大豆粕の輸出税について2022年末まで2%引き上げ、大豆と横並びの33%と変更した。

大豆ーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	48.8	46.2	43.5 (41.5)	▲ 1.5	▲ 5.8	
消費量	45.9	47.4	47.2 (45.0)	0.0	▲ 0.4	
うち搾油用	38.8	40.2	40.0 (39.0)	-	▲ 0.4	
輸 出 量	10.0	5.2	2.8 (4.7)	▲ 1.0	▲ 47.1	
輸 入 量	4.9	4.8	2.9 (3.5)	▲ 0.2	▲ 39.8	
期末在庫量	26.7	25.1	21.5 (1.3)	▲ 0.7	▲ 14.2	
期末在庫率	47.7%	47.6%	43.0% (2.6%)	▲ 0.6	▲ 4.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.70	16.47	16.00 (16.25)	▲ 0.20	▲ 2.9	
単収(t/ha)	2.92	2.81	2.72 (2.55)	▲ 0.06	▲ 3.2	

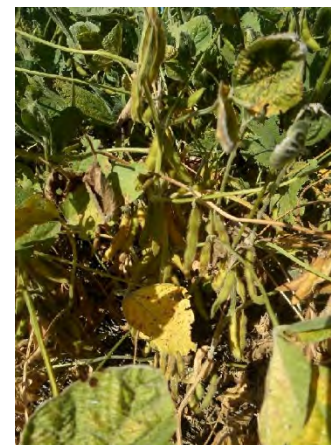
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(9 March 2022)

IGC「Grain Market Report」(17 February 2022)

写真：北部サンタフェ州の大豆の生育風景 (3月3日撮影)

前年10月下旬に作付けされ、現在は成熟期で多くの
莢に身が入っている。収穫は3月下旬の予定。



< 中国 > 減産見通し、消費量・輸入量は下方修正

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収益性の高いとうもろこし等への作付けのシフトにより収穫面積が減少したことから、前年度より16.3%減の16.4百万トンの見込み。

前年11月上旬時点で、収穫は終了。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、搾油マージンの悪化により、搾油用消費量が前月予測から2.0百万トン下方修正されたものの、前年度より0.1%増の111.7百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、消費量の下方修正と備蓄在庫の放出に伴い前月予測から3.0百万トン下方修正され、前年度より5.8%減の94.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～12月の輸入量は96.5百万トンと、前年比で3.8%減。内訳は、ブラジル産58.2百万トン（60%）、米国産32.3百万トン（33%）。なお、2021年12月の輸入量は8.9百万トンで、前年同月（7.5百万トン）より17.8%増。うち、米国産が6.1百万トンと69%を占めた。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2022年1月号」によると、1月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、国産大豆の価格が高いため主産地の大豆農家は価格のさらなる上昇を期待し、市場での取引が比較的閑散となったことから、前月（6,540元/トン）からやや下落し、6,480元/トンとなったものの、依然として高水準である。1月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は4,460元/トンと前月（4,320元/トン）から大幅に上昇した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

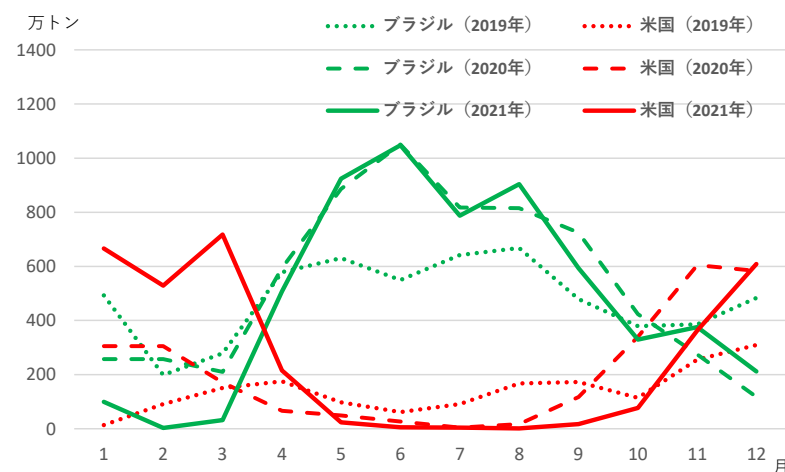
大豆—中国

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	18.1	19.6	16.4 (16.4)	-	▲ 16.3
消 費 量	109.2	111.6	111.7 (115.5)	▲ 2.0	0.1
うち搾油用	91.5	93.0	92.0 (97.3)	▲ 2.0	▲ 1.1
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9
輸 入 量	98.5	99.8	94.0 (96.3)	▲ 3.0	▲ 5.8
期末在庫量	26.8	34.5	33.1 (28.8)	▲ 1.0	▲ 4.1
期末在庫率	24.5%	30.9%	29.6% (24.9%)	▲ 0.4	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.33	9.88	8.40 (8.40)	-	▲ 15.0
単収(t/ha)	1.94	1.98	1.95 (1.95)	-	▲ 1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2022)
IGC 「Grain Market Report」(17 February 2022)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

＜ カナダ ＞ 西部での高温乾燥の影響で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、生育期間の西部カナダでの乾燥の影響による単収の減少に伴い、前年度より1.4%減の6.3百万トンの見込み。前年11月末時点で、収穫は終了。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2022.3.18)によれば、今後作付けされる2022/23年度の実産量は、カナダ西部では土壌水分不足の懸念や小麦等の競合作物も価格が魅力的なことから作付面積の増加は抑えられるものの、高い大豆価格に支えられ、主産地のカナダ東部を中心に作付面積が増加し、前年度より4.4%増の6.6百万トンの見込み。

【需要状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、輸出量の上方修正に伴い前月予測から0.2百万トン下方修正され、前年度より11.7%減の2.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、カナダ産の輸出需要増加に伴い前月予測から0.2百万トン上方修正され、前年度より3.1%減の4.4百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021/22年度(2021年8月～2022年7月)のうち、2021年8月～2022年1月の輸出量は255.4万トンで、国別では、イラン(47.1万トン)、イタリア(34.6万トン)、オランダ(22.6万トン)、アルジェリア(21.9万トン)の順。

大豆－カナダ

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はAAFC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.1	6.4	6.3	(6.3)	－	▲ 1.4
消費量	2.6	2.7	2.3	(2.5)	▲ 0.2	▲ 11.7
うち搾油用	1.8	1.6	1.8	(1.8)	－	6.6
輸 出 量	3.9	4.5	4.4	(4.0)	0.2	▲ 3.1
輸 入 量	0.3	0.5	0.5	(0.4)	－	▲ 3.1
期末在庫量	0.6	0.3	0.3	(0.5)	－	8.2
期末在庫率	9.6%	4.1%	4.7%	(6.9%)	－	0.6
(参考)						
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.13	(2.14)	－	4.4
単収(t/ha)	2.71	3.12	2.94	(2.93)	－	▲ 5.8

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(9 March 2022)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(18 March 2022)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・ 食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・ 食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・ 米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・ 食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・ 砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・ 野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・ 畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・ 国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・ 国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・ 経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・ 農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・ 米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・ カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・ 豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2022 年 3 月中旬までに発表した情報を引用しています。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020 年 1 月 31 日付けで EU を離脱しました。英国の小麦に関する情報については小麦の EU27+英国のコーナーで取り扱います。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--